

令和元年度(令和2年度実施) 施策評価表

1 施策No.	6-1-1		
2 地域づくりの方向	人間優先の基盤が整備された安全・安心のまち		
3 政策	文化と魅力を備えたまちづくり		
4 施策	地域の特性を生かした市街地の形成		
5 評価担当部	都市整備部		
6 施策関連課	都市計画課		
7 評価者	都市整備部長 近藤 正仁		

8 施策の目標	地域の特性を踏まえた魅力ある都市づくりを推進します。						
	安全・安心で快適に暮らせる都市を実現します。						
	四季の彩りに包まれた環境に優しい都市空間を形成します。						
	文化の彩りと回遊性の広がりが生み出すにぎわいと活力を創出します。						
9 施策の現状と課題	<p>○平成27年3月に「豊島区都市づくりビジョン」を策定し、基本理念に掲げた「次世代が誇れる文化と魅力を備えた都市の創造」の実現に向け、計画的な都市づくりを推進している。</p> <p>○また、平成27年12月に景観行政団体へ移行し、平成28年3月には「豊島区景観計画」を策定して、魅力ある景観づくりに取り組んでいる。</p> <p>○池袋副都心の再生や木造住宅密集地域の改善などの都市整備プロジェクトが本格的に動き始め、都市の姿が大きく変わろうとしている。</p> <p>○こうした都市づくりにあわせて、地域の特性を最大限に惹き立て、都市の価値を高める市街地の形成や景観の創出が必要である。</p>						
10 施策の実現に影響を及ぼす環境の変化(法改正、社会状況等)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都都市づくりのグランドデザインの策定(平成29年9月) ・東京における土地利用に関する基本方針(平成31年2月) 						
11 今年度の施策の取組方針	地域特性を踏まえ、人にやさしい快適な環境を次世代に引き継げるまちづくり計画を定め、個別事業や建築計画等を誘導していく。						
12 投入コストの推移	費目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	事業費合計(千円)	60,459	58,932	56,660	70,348	0	
	うち一般財源分(千円)	60,459	58,932	56,660	70,348	0	
13 施策の達成度を測る指標の推移	指標(1)	基本計画指標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」について、肯定的な回答をする区民の割合	目標値	18.0%	19.0%	20.0%	21.0%	22.0%
		実績値	22.1%	24.8%	27.2%	30.3%	
		達成率	122.8%	130.5%	136.0%	144.3%	—
		達成状況	A:達成	S:目標超過達成	S:目標超過達成	S:目標超過達成	
指標重要度の割合(%)	100	指標設定理由					
14 施策達成状況	令和元年度達成状況	144.3%	【達成状況分析】				
	S:目標超過達成	指標は目標値を大きく上回っており、地区計画や景観計画により、地域の特性に合わせた良好な市街地となるよう計画的に誘導してきた結果であると考え。					
		【指標重要度の割合の設定理由】					
15 施策を構成する事務事業評価を踏まえた分析	地区計画や景観計画は法に基づく地域ルールである。地域住民の参加により各地域の特性を踏まえてこれらの計画を策定し、建築物の建替え時に地域ルールに適合させていく。こうした一連の効果が徐々に表れてきている。住民の自主的なまちづくりに対しては、まず区職員による支援を行い、活動の熟度に応じて予算化を図るなどにより効果的な支援を展開する。						
16 施策貢献度の考え方(設定の根拠・理由)	市街地更新の重要な要素となる建築物等の形態面で計画誘導する「池袋駅周辺・主要街路沿道エリア地区計画変更経費」を★★★、池袋西地区のまちづくりを推進する目的で協議会を立ち上げた「池袋西地区エリアマネジメント推進事業」及び色彩や意匠など景観面で誘導する「景観計画推進事業」を★★、上位計画と整合性を図るため一部改正する「都市づくりビジョン改定事業」を★とする						
17 来年度の方針(課題解決策や改善策、成果向上策について)	東京都は平成29年9月に策定した都市づくりのグランドデザインを踏まえ、都市づくりにおける上位計画の策定・改定作業を進めている。区は、これを受け、令和2年度を目途として都市づくりビジョンの改定作業を進めており、この進捗に応じて景観計画の改定検討を進める必要がある。今後も、計画的な都市づくりを推進し、都市の価値を高める市街地の形成や景観を創出することにより、区民の住環境への満足度向上を図っていく。特に、基盤整備などのハード面の取組と、文化や観光等のソフト面の取組のさらなる連携強化を通じて、地域資源を活用した、区民が住み続けたいと思うまちづくりを進める。						

令和元年度(令和2年度実施) 施策評価表

18 新規・拡充事業の効果や必要性	東京都は平成29年9月に策定した都市づくりのグランドデザインを踏まえ、都市づくりにおける上位計画の策定・改定作業を進めている。区は、これを受け、令和2年度を目途として都市づくりビジョンの改定作業を進めており、この進捗に応じて景観計画の改定検討を進める必要がある。
-------------------	---

19 施策を構成する計画事業							
事業整理番号	事業名	項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1001-01	池袋駅周辺・主要街路沿道エリア地区計画変更経費	事業費合計(千円)	23,623	21,952	19,099	16,077	
		うち一般財源分(千円)	23,623	21,952	19,099	16,077	
		現状評価					
	事業特性1 任意的事業	施策貢献度	★★★	★★★	★★★	★★★	
	事業特性2 区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	
1001-02	豊島区都市づくりビジョン改定事業	事業費合計(千円)				15,234	
		うち一般財源分(千円)				15,234	
		現状評価					
	事業特性1 任意的事業	施策貢献度				★	
	事業特性2 区単独	今後の事業の方向性				A:現状維持	
1001-03	池袋西地区エリアマネジメント推進事業	事業費合計(千円)				9,152	
		うち一般財源分(千円)				9,152	
		現状評価					
	事業特性1 任意的事業	施策貢献度				★★	
	事業特性2 区単独	今後の事業の方向性				A:現状維持	
1001-04	豊島区景観計画推進事業	事業費合計(千円)	35,986	36,980	37,561	29,885	
		うち一般財源分(千円)	35,986	36,980	37,561	29,885	
		現状評価	A:良好	A:良好			
	事業特性1 任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★	★★	
	事業特性2 区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	

令和元年度(令和2年度実施) 施策評価表

1 施策No.	6-1-2		
2 地域づくりの方向	人間優先の基盤が整備された安全・安心のまち		
3 政策	文化と魅力を備えたまちづくり		
4 施策	池袋副都心の再生【重点】		
5 評価担当部	都市整備部		
6 施策関連課	都市計画課		
7 評価者	都市整備部長 近藤 正仁		

8 施策の目標	<p>国際拠点池袋の魅力を高めるために、文化芸術機能を強化するとともに都市機能を集積させ、国際アート・カルチャー都市を形成し、東京の国際競争力を強化します。</p> <p>都市基盤や街区の再編と併せ、駅前広場や東西デッキ等の整備により、回遊性・利便性の高い歩行者中心のまちに都市構造を転換していきます。</p> <p>都市再生事業と連動したエリア防災対策と地域エネルギーの高効率化を進め、災害時の対応力と都市の環境性能を強化していきます。</p>						
9 施策の現状と課題	<p>○池袋駅周辺とサンシャインシティに至る道筋などの一部地域に商業施設の集積に偏りが見られる。また、鉄道施設によりまちが東西に分断されている。</p> <p>○池袋駅の日平均乗降客数は250万人を超えているが、約7割が乗換え利用であり、駅の賑わいがまちへ広がっていない。</p> <p>○このため、商業機能の強化や多彩な都市機能の高度な集積、歩行者の回遊性拡大、風格のある都市景観の創出など、まち全体としての魅力を高める必要がある。</p> <p>○また、大規模災害の発災時に発生が想定される大量の滞留者や帰宅困難者への対策は急務となっている。</p> <p>○池袋駅の東西で稼働している各地域冷暖房施設や池袋駅至近にある豊島清掃工場の排熱の利用など、既存のストックを活用したエネルギー利用の効率化と災害時の対応力を高める必要がある。</p>						
10 施策の実現に影響を及ぼす環境の変化(法改正、社会状況等)	<ul style="list-style-type: none"> ・特定都市再生緊急整備地域指定(平成27年7月) ・国家戦略特区指定(平成27年8月) ・アジアヘッドクォーター特区指定(平成28年11月) ・都市づくりのグランドデザイン(平成29年9月) ・池袋駅周辺地域基盤整備方針(平成30年5月) 						
11 今年度の施策の取組方針	池袋副都心における商業・業務機能の秩序ある発展と各地域の個性を活かしたまちづくりの展開により都市全体の魅力と活力の向上を目指す。						
12 投入コストの推移	費目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	事業費合計(千円)	156,694	103,557	609,598	744,491	0	
	うち一般財源分(千円)	134,379	101,747	368,188	430,211	0	
13 施策の達成度を測る指標の推移	指標(1)	基本計画指標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	「池袋周辺で、新宿、渋谷などにはない魅力あるまちづくりが進んでいる」について、肯定的な回答をする区民の割合【%】	目標値	26.0%	27.0%	28.0%	29.0%	30.0%
		実績値	28.1%	30.0%	35.2%	39.9%	—
		達成率	108.1%	111.1%	125.7%	137.6%	—
		達成状況	A:達成	A:達成	A:達成	S:目標超過達成	—
	指標重要度の割合(%)	100	指標設定理由				
14 施策達成状況	令和元年度達成状況	137.6%	【達成状況分析】				
	S:目標超過達成		<p>指定の目標値である魅力あるまちづくりに肯定的な割合(39%)は超えている。池袋駅周辺地域では、昭和53年のサンシャインシティの開業を機に都市の賑わいが広がった。しかし、区の支援による東池袋四丁目の再開発事業が平成19・21年に完成するまでの約30年間は大規模な都市再生事業が進んでいない。その後、市街地再開発事業による新庁舎整備と連動した旧庁舎跡地の開発とともに、区が国際アート・カルチャー都市構想を打ち出したことなどを契機として、都市再生の機運が大きく高まった。特定都市再生緊急整備地域の指定、国家戦略道路占用事業の認定、アジアヘッドクォーター特区の指定などを活用して連鎖的に魅力あるまちづくりを進めてきたことにより、区民の要望や期待にこたえてきた結果であると考えられる。</p>				
			【指標重要度の割合の設定理由】				
15 施策を構成する事務事業評価を踏まえた分析	<p>施策を構成する事務事業は、すべて様々な関係事業者等との協議により進めていくものであり、関係者によって事業規模やスケジュール、関わり方に差異がある。そのため状況に応じた段階的な協議、個別関係者とのきめ細やかな協議が必要であり、施策の実現には相応の時間が必要であると考えられる。</p>						
16 施策貢献度の考え方(設定の根拠・理由)	<p>池袋副都心の再生のため、国、都、民間事業者等広く関係者等との協議を要するような、池袋副都心全体のまちづくりの計画や方針の策定については★★★とし、全体の計画や方針を実現するための個々の事業については★★とした。ただ、個々の事業であっても、事業規模が大きく、スケジュールも直近に迫っているものについては、副都心再生への影響が大きいため★★★とし、事業が動き出す前の検討段階のものについては★としている。</p>						

令和元年度(令和2年度実施) 施策評価表

<p>17 来年度の方針 (課題解決策や改善策、 成果向上策について)</p>	<p>池袋駅周辺地域を、「世界中から人を惹きつける国際アート・カルチャー都市のメインステージ」としていくためには、シンボリックな都市の顔や個性ある拠点を形成するとともに、高質な空間をネットワークし地域の魅力を高めていく。 そのため、魅力ある都市像とともに都市基盤の整備方針を明示し、関係する事業者や地権者等と継続的な協議を重ねながら、都市再生事業の機運をさらに高め、脆弱な都市基盤の再編と老朽化した市街地の更新を同時に進めていく。</p>
<p>18 新規・拡充事業の 効果や必要性</p>	<p>上記の方針を実現していくため、大規模建築物や公共都市基盤の整備を対象として、質の高い都市空間デザインを適切に誘導していくための指針の検討、策定、運用を進めていく必要がある。</p>

19 施策を構成する計画事業								
事業整理番号	事業名		項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1001-05	池袋副都心再生推進事業		事業費合計(千円)	56,362	54,654	25,819	27,460	
			うち一般財源分(千円)	56,362	54,654	25,819	27,460	
			現状評価	B:普通	B:普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★★	★★★	★★★	★★★	
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	S:拡充	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	
1001-06	池袋駅東西連絡デッキ整備事業		事業費合計(千円)	100,332	22,835	575,898	712,080	
			うち一般財源分(千円)	78,017	21,025	334,488	397,800	
			現状評価	A:良好	B:普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★	★★	
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	S:拡充	A:現状維持	A:現状維持	
1001-07	池袋駅周辺地域拠点まちづくり推進事業		事業費合計(千円)		8,673	2,935	12	
			うち一般財源分(千円)		8,673	2,935	12	
			現状評価		A:良好			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度		★	★	★	
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性		A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	
1001-08	池袋駅周辺地域街区再編まちづくり推進事業		事業費合計(千円)		17,395	4,946	4,939	
			うち一般財源分(千円)		17,395	4,946	4,939	
			現状評価		A:良好			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度		★★	★★	★★	
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性		A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	

令和元年度(令和2年度実施) 施策評価表

1 施策No.	6-1-3		
2 地域づくりの方向	人間優先の基盤が整備された安全・安心のまち		
3 政策	文化と魅力を備えたまちづくり		
4 施策	活力ある地域拠点の再生		
5 評価担当部	都市整備部		
6 施策関連課	都市計画課	道路整備課	
7 評価者	都市整備部長 近藤 正仁		

8 施策の目標	池袋以外の駅周辺は、人々が活発に交流し、にぎわうまちとして、都市の機能を更新・集積するなど、個性を生かした活力と魅力ある地域の拠点として再生します。 駅周辺では、利便性や賑わいの向上を図り、地域の歴史や文化特性を生かしたまちづくりをすすめるため、駅前広場や駐輪場を整備し、安全で快適な歩行者空間を創出します。						
9 施策の現状と課題	○池袋駅以外の各鉄道駅周辺は、地域に親しまれる一定規模の商業・業務地が形成されている。それらの駅周辺では、これまで順次、関係機関と協力して、駅舎の改造、駅前広場や周辺道路の再整備をしている。これからも、各駅周辺では、快適な歩行者空間の充実や地域特性を生かしたまちづくりを行っていく必要がある。 ○高齢者や障害のある方などが社会や地域の活動に参加しながら、安全で快適に自立した日常生活や社会生活を営むことができる環境づくりが求められている。そのためには、誰もが安全で快適に利用することができる、公共空間の整備を進める必要がある。						
10 施策の実現に影響を及ぼす環境の変化(法改正、社会状況等)	<ul style="list-style-type: none"> ・駅ホームにおける安全性向上のための検討会中間とりまとめフォローアップ(平成29年7月)・・・1日10万人以上が利用する駅については原則2020年度までに転落防止のホームドアを設置する。 ・都市づくりのグランドデザイン(平成29年9月) ・東京都都市開発諸制度活用方針(平成31年3月改定) 						
11 今年度の施策の取組方針	各駅及び駅周辺において、地域の個性を生かした整備や維持管理を図るとともに、安全で快適な歩行者空間を確保する。						
12 投入コストの推移	費目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	事業費合計(千円)	144,984	141,688	453,631	73,646	0	
	うち一般財源分(千円)	144,984	141,688	293,631	73,646	0	
13 施策の達成度を測る指標の推移	指標(1)	基本計画指標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	「駅および駅周辺が整備され、利用しやすくにぎわっている」と思う区民の割合	目標値	43.1%	44.1%	45.1%	46.1%	47.1%
		実績値	44.7%	49.6%	49.1%	49.5%	
		達成率	103.7%	112.5%	108.9%	107.4%	—
		達成状況	A:達成	A:達成	A:達成	A:達成	
	指標重要度の割合(%)	100	指標設定理由 区が進めるまちづくりが、区民の要望や期待に応じることができているのかを示す指標であるため				
14 施策達成状況	令和元年度達成状況	107.4%	【達成状況分析】 地域の拠点となる大塚駅や東長崎、椎名町駅でのバリアフリー化と駅前空間整備を順次進めてきたことが指標を達成する要因となっていると考える。 【指標重要度の割合の設定理由】				
15 施策を構成する事務事業評価を踏まえた分析	鉄道駅周辺は地域の生活及び活動の拠点となる。大塚駅周辺では、駅舎改良と南北自由通路、南口駅前広場の整備が完了し、現在、北口駅前空間の整備が進んでいる。その過程では地域住民や関係事業者との協議を重ねており、こうした連携が事業実施はもとより、ハード整備完了後における民間主導のマネジメントへとつながる。また、鉄道駅の安全性を高め、駅周辺地域のバリアフリー化について、関係者等と課題を共有していくことが、地域の活力を支える安全・安心の実現につながる。						
16 施策貢献度の考え方(設定の根拠・理由)	活力ある地域拠点の再生には、地域住民や事業者等の主体的な取り組みにより地域特性を踏まえた個性ある魅力と安全を兼ね備えたまちづくりを進めていくことが重要である。魅力と活力ある市街地改善がスタートする「南池袋二丁目C地区市街地再開発事業」を★★★、鉄道事業者によるホームドア整備への支援である「鉄道駅等バリアフリー推進事業」を★とした。						
17 来年度の方針(課題解決策や改善策、成果向上策について)	東京都の都市開発諸制度活用方針が平成31年3月に改定され、巣鴨、駒込、大塚の各駅周辺が「活力とにぎわいの拠点地区」に位置付けられた。こうした拠点地区の位置づけを踏まえ、地域住民、関係機関、関係事業者との協議を引き続き重ねながら、施設整備を進めるとともに、地域が主体的に取り組む活力ある拠点の形成を目指す。						

令和元年度(令和2年度実施) 施策評価表

18 新規・拡充事業の 効果や必要性	バリアフリー基本構想は、池袋駅地区以外の地区についても、その要否を含め検討する必要がある。 さらに地域ニーズを踏まえた巣鴨駅や駒込駅周辺の整備について検討していく。
-----------------------	---

19 施策を構成する計画事業								
事業整理番号	事業名		項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1001-09	南池袋二丁目C地区市街地再開発事業		事業費合計(千円)			332,101	12,116	
			うち一般財源分(千円)			172,101	12,116	
			現状評価					
	事業特性1	任意の事業	施策貢献度			★★★	★★★	
	事業特性2	国・都補助 + 区上乗せ	今後の事業の方向性			S:拡充	S:拡充	
1001-10	鉄道駅等バリアフリー推進事業		事業費合計(千円)	144,984	141,688	121,530	61,530	
			うち一般財源分(千円)	144,984	141,688	121,530	61,530	
			現状評価	B:普通	B:普通			
	事業特性1	任意の事業	施策貢献度	★★	★★	★	★	
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	D:終了	

令和元年度(令和2年度実施) 施策評価表

1 施策No.	6-1-4		
2 地域づくりの方向	人間優先の基盤が整備された安全・安心のまち		
3 政策	文化と魅力を備えたまちづくり		
4 施策	新・旧庁舎を活用した文化にぎわいの創出		
5 評価担当部	都市整備部		
6 施策関連課	都市計画課	道路整備課	文化デザイン課
7 評価者	都市整備部長 近藤 正仁		

8 施策の目標	<p>新庁舎周辺は、新たな文化拠点として、魅力あるアプローチ動線の再生や他のにぎわい拠点との連携により、快適な都市空間を形成し、人々の回遊性を高めます。</p> <p>旧庁舎と公会堂、区民センターの敷地は、中池袋公園と南北区道を含め、新たなにぎわい拠点として再生し、文化を核とした広範なまちづくりのネットワーク形成を推進します。</p>						
9 施策の現状と課題	<p>○池袋駅の東口は、サンシャインシティ方面の一点に歩行者の流れが集中し、面的なにぎわい空間の広がり課題がある。区は、新庁舎整備を契機として、庁舎跡地は民間活用により新ホールをはじめとする8つの劇場を整備する「Hareza池袋」が完成し、新たなにぎわい拠点が完成した。近年、庁舎跡地周辺では民間による開発事業が活発化しており、庁舎跡地周辺のまちづくりを展開することで、魅力と回遊性を面的に広げていく必要がある。</p> <p>○新庁舎周辺のグリーン大通りではオープンカフェやマルシェを実施し、道路空間の新たな活用方法を検討した。これらをもふまえ、国家戦略特区との関連を整理しながら、エリアマネジメントに基づく住民主体のまちづくりが確立できるよう調整を進めていく必要がある。</p>						
10 施策の実現に影響を及ぼす環境の変化(法改正、社会状況等)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇話会提言(令和元年6月国交省) ・ウォーカブル推進都市の募集(令和元年7月国交省) 						
11 今年度の施策の取組方針	新たなにぎわい拠点の創出に向けて、期待感を醸成する。						
12 投入コストの推移	費 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	事業費合計(千円)	24,556	71,096	40,382	35,941	0	
	うち一般財源分(千円)	24,556	71,096	40,382	35,941	0	
13 施策の達成度を測る指標の推移	指標(1)	基本計画指標	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	「新庁舎をはじめとして、池袋駅を中心とした広範なまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合	目標値	39.4%	40.4%	41.4%	42.4%	43.4%
		実績値	47.1%	50.5%	55.1%	55.7%	
		達成率	119.5%	125.0%	133.1%	131.4%	—
		達成状況	A: 達成	A: 達成	S: 目標超過達成	S: 目標超過達成	
指標重要度の割合(%)	100	指標設定理由					
14 施策達成状況	令和元年度達成状況	131.4%	【達成状況分析】				
	S: 目標超過達成	Hareza池袋をはじめ複数のプロジェクトが完成し、整備が進んでいることが視覚的にも確認できるようになったことに加え、グリーン大通でのマルシェやイベントを定期的に開催していること、リニューアルした南池袋公園など賑わい空間の演出が評価されたものと考えている。1年延期した2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、更にまちづくりの機運を高めていくことが必要である。					
		【指標重要度の割合の設定理由】					
15 施策を構成する事務事業評価を踏まえた分析	<p>新庁舎整備と旧庁舎跡地の開発は区が先導しながらも民間のノウハウを活用して池袋副都心の新たな拠点を形成するものである。この拠点を核として道路や公園などの都市基盤を整備することで、サンシャインシティ方面に偏っていた歩行者の流れを広げ、民の力の活用しながら池袋副都心全域での魅力と回遊性を高めていくことが必要である。現在はその過程にあるが、公民連携のもとで民間主導のエリアマネジメントへと発展する素地を築きつつあると考える。</p>						
16 施策貢献度の考え方(設定の根拠・理由)	グリーン大通りは池袋の都市軸として賑わいを演出していくことが必要であるため★★、庁舎跡地活用は令和元年度で事業終了のため★としている。						
17 来年度の方針(課題解決策や改善策、成果向上策について)	国土交通省では、新たな時代のまちづくりの方向性として「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出により、イノベーションと人中心の豊かな生活を実現する方策を検討している。この事例として、グリーン大通りや南池袋公園が紹介されるなど、本区の取組みが注目されている。マルシェやオープンカフェなどによる道路空間の活用について、単にイベントに終わらず、沿道建物低層階の都市機能と一体となり、持続的な活動へと発展させていく。						

令和元年度(令和2年度実施) 施策評価表

18 新規・拡充事業の 効果や必要性	<p>グリーン大通り沿道建物は、未だ銀行などの業務機能が多くを占める。こうした沿道建物の用途をにぎわいを演出する機能へと転換を促していくため、沿道建物建て替えの意向調査を行い、インセンティブを含んだ都市計画手法を検討していく必要がある。また、道路空間のさらなる活用方策について、新たな仕組みの検討も必要である。</p>
-----------------------	---

19 施策を構成する計画事業								
事業整理番号	事業名		項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1001-11	グリーン大通りエリアマネジメント推進事業		事業費合計(千円)	24,556	18,306	17,849	19,524	
			うち一般財源分(千円)	24,556	18,306	17,849	19,524	
			現状評価	B:普通	B:普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★	★★	
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持	
0502-26	庁舎跡地活用事業		事業費合計(千円)		52,790	22,533	16,417	
			うち一般財源分(千円)		52,790	22,533	16,417	
			現状評価					
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度			★★	★	
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性			A:現状維持	D:終了	